

知事記者会見（平成22年8月30日）

●知事発表

なし

●幹事社質問

- (1) 31日からのロシア訪問について
- (2) 民主党の代表選について

●その他

- (1) 韓国ドラマ「アイリス2」のロケについて
- (2) 高校野球の強化策について
- (3) 入札予定価格の事後公表の試行について

時間：11：01～11：41

場所：プレゼンテーションルーム

(幹事社)

おはようございます。今日は知事の発表事項がないということなので、質問に入らせていただきます。

(知事)

私から一つ、一昨日、100周年の大曲の花火にまいりました。実は、大変久しぶりに大曲の花火を見ました。暑くて大変混雑しましたがけれども、素晴らしい花火であったと思います。そしてまた、特に大きな事故もなく終えたということで、大仙市、関係者の皆さん、大変なご努力なされたということがありありと見えました。あれだけ多くの方が集まるというのはなかなかないわけで、この後もああいう形で200周年を迎えてほしいなと思います。以上です。

(幹事社)

ありがとうございました。

では、幹事社質問に入りたいと思いますけれども、まず1つ目は31日からの知事のロシア訪問につきまして、意気込みなど一言いただければと思います。お願いします。

(知事)

明日から3日まで、「飛鳥Ⅱ」で行く県民クルーズがありまして、ちょうどこの3月に沿海地方行政政府と包括協定を結んだということ、あるいは秋田市とウラジオストク市が姉

妹都市であるということ、(秋田)魁(新報)さんが前から(県民クルーズを)主催して、たまたまこれとうまく合ったということで、観光交流も協定の中にはありますので、これだけの多くの県民の皆さんが行くという機会は、そうないわけですので、それが協定を結んだその年に実現できたということは非常に象徴的な意味合いがあるのではないかと思います。そういうことで私や議長、その他関係者が行くわけですが、ウラジオストクの山田総領事のお話でも、単独の県でこれだけの観光団がウラジオストクに来るということはなかなか珍しいということで、大変話題にもなっているということです。この5月にダリキン知事から伺った、農業の交流のこととか、医療分野のこととか、我々としては幾つかダリキン知事からの要請に応える形でプランニングをしていますので、あちらの方に提案するということと、あるいは秋田港がある意味では東アジア戦略、当然ロシアとの今後の貿易拡大という意味も含めて国の重点港湾として選定されたというプレゼンテーション、あるいは、日本国内の今後のシベリア鉄道の活用という面、これは秋田というよりも、オールジャパンでの情報収集もしていますので、そういう点を情報提供しながら、今後、実際の流通貿易のさらなる拡大に努めるということにしています。

そして、先般、5月にウラジオストクに全国知事会として寄った際にも、あちらの州議会の方からも議会との交流もしたいということで、今回、議長にも議会交流という形で行っていただくということにしています。これは、当然どちらも執行部と議会がございますので、いろいろな政策を実施するにしても一定の情報の共有というのが必要なのではないかなと思っています。

また、ウラジオストクでは10月に秋田フェアとか、ビジネスマッチング等の催し物も予定していますので、そういうことについても協力要請をするということです。県民の皆様と一緒にということで、船内では、幾つか、パネルディスカッション等を行いまして、私だとか県議会議長だとかが参加しまして、せっかくの機会ですので、東アジアのいろんな交流戦略等について県民の皆さんに情報提供しながら、ご意見を伺うという催し物も船内で予定しています。

(幹事社)

ありがとうございます。

では2つ目の質問なんですけれども、告示の迫っている民主党代表選についてですけれども、現在、小沢さんが出馬されるというようなお話もありますが、知事はどうぞ覧になっているかということをお願いします。

(知事)

今日の夜、鳩山さんが仲介するとかしないとか、どうなるのか、最終的にはわかりませんが、いろいろなご意見があるかと思えます。公職の選挙であっても、政党ルールの中の選挙であっても、私の持論ですけれども、選挙に出たい人は出るべきだと。選挙に出られる状態にある人を出るべきでないとか、出た方がいいとか、出るなとかいうことは私はおかしいことだと思います。ですから、今の時期に代表選をやっている場合かどうかということもあるかと思えますけれども、物事というのはすっきりさせて、一気呵成に政策を進めた方がいい場合もありますし、私は小沢さんが出るというのはご自身の判断でしょう

し、これは特に私は問題はないのではないかと思います。

ただ問題は、その後、どうなるのかというのは非常に流動的なのかなと思います。たまたま、小沢さんが出ると表明したその日、青森にいてマスコミの方には、それはそれとして菅さんが総理大臣であることは今でも変わりはありませんので、経済政策については抜かりのないようにきちっとやって、そして代表選は代表選としてやっていただきたいと話をしました。

菅さんがいいとか悪いとかではありませんけれども、日本の政治が長らく、常に反対する、あるいは抵抗勢力ということで封じ込めるといってやってきているような感じがします。そういうことからして、世界の流れに合わせたような、前向きの政策というものをほとんど忘れた形で、国政が10年間ぐらい行われてきていましたので、ここら辺がなかなか難しい問題なのかなと思います。そういう意味からすると、国民の間では不可思議な状況というか、一方で期待はするけれども、しかしながら、政治もある程度の慣れが必要なものですから、高度経済成長のときは政策がある程度軌道に乗るまで時間がかかってもよかったんですけども、今は僅かな時間が日本の経済の命取りになるという状況ですので、代表選が終わった後でも、思い切った政策をやっていただいて、その足を引っ張ることはやめていただきたいというのが偽らざる気持ちです。代表選は、僅か2週間ですけども、一方で菅さんが経済政策をきちっと指示しながら代表選に臨んで、その結果としてすっきりした形で来年度予算に向かって進んでいただきたいというのが、総括です。

(幹事社)

ありがとうございました。

この2点について関連の質問がある社をお願いします。

(記者)

ロシアに行かれることに関連してですが、知事の方からダリキン知事と会談する際、秋田県から沿海地方に対して提案するその技術協力、内容をまず教えてください。

(知事)

果樹、特にブドウ等の栽培について、5月に(ダリキン知事から)お話がありまして、実は予備調査をしていてその結果が出ています。細かい情報はダリキン知事というよりも担当者レベルの話になりますけれども、あちらから要請のあったブドウの栽培については一部回答はできます。医療関係については、これからです。循環器系の血管、あるいは心臓の問題について、ロシアの方の死因の大半を占めているというお話がありまして、今回は、脳研のセンター長も同行しますので、今度はあちらの方の専門家とのいろんな情報のやりとりの窓口を今回作るということです。

それとこれはちょっと概括的な話だけで細かい話はできないですけども、シベリア鉄道の活用についても情報収集をしています。ロシア側からも、本格的なシベリア鉄道の日本向けの運行はあちらの事情から3年後ぐらいから始まるということで、スピードアップとか、料金の問題についてもロシア政府から公表されましたので、我々としても我々が知り得る範囲での日本側のシベリア鉄道の活用への流れというものを一部お話できるのかな

と思っています。

いずれにしても、シーアンドレールを含めて貿易流通、農業交流、医療技術交流について具体的な話を今回提案して、それに対して沿海地方行政政府の方はどういう反応を示すのか、我々としては反応を見ながらまた次の段階に行くということです。

(記者)

具体的に今の農業と医療の分野では、その技術者、あるいは研修者の受け入れとか、それから派遣とか、そういうのは提案するご予定ですか。

(知事)

はい、こういう範囲ではこういうことができると、例えばブドウについては相当我々の方で研究も進んでいますし、実際、あちらの方を調べまして、ある程度こういうことであればできると、気候風土上、無理だとかという、そこら辺の具体的な調査結果も出ていますので、そういうことは提示できるのかなと思っています。医療の関係も、今回は秋田県には循環器系ではこういう施設があって、レベルはこうだということで、研修とか、派遣とかは当然できますよということについてお話できるのかなと思っています。

(記者)

関連しますけれど、一方で秋田県が、貿易拡大、それから航路誘致に向けて、沿海地方行政政府に対して、今回何を要望されるのか、そこを教えてくださいませんか。

(知事)

我々としては、日本国内、これは秋田の荷物だけでは航路はなかなか難しいわけです。そういう形でのポートセールスを今進めていますけれども、一方でロシアの内部の開発に伴いまして、日本の大手企業もロシアとの物のやりとりについて構想を持っているところが出てきています。そういうところの日本の状況をお伝えしながら、日本企業としては、確実性というんですか、その信頼性について、皆さん方が若干その懸念を示していると。そういうことで私どもとしては、ロシアのシベリア鉄道を活用するとなると、その信頼性というものについて、これはシベリア鉄道は沿海州地方だけではなくてサントペテルブルグまでいっていますので、ロシア全体の問題だと思えます。極東の入り口、出口として沿海州行政政府の役割は大きいと思えます。(シベリア鉄道を)本格運用するに当たって、これは航路の開設にも結びつくわけですので、ロシア国内もその物流がスムーズに行くようにというところでダリキン知事にはリーダーシップをとってもらいたいということが我々としては望みでありまして、会談の中でこちらからも具体的な事例を一部挙げて要請したいと思っています。

(記者)

航路誘致に関しても積み荷の確保などで交流、協力は求めていくということでよろしいでしょうか。

(知 事)

はい。

(記 者)

民主党の代表選挙についてですけれども、各種世論調査だと、菅さんが代表を続けるべきだという意見が国民の世論としては高いようです。そのことについて知事がどう思うかということと、知事として県政運営するに当たって菅さんと、仮にですけれども菅さんと小沢さんが代表選に出た場合に、どちらが代表になった方が県政運営にとって望ましいか、そこを聞きたいんですが、お願いします。

(知 事)

どっちがいいとか言うわけにはいきませんが、確かに、鳩山さんが小沢さんと一緒に責任をとって退いたわけで、それが3カ月ぐらいでまた出てくると。一方で、政治とカネの問題が解決しきれていない中で出てくるのはいかがなものかという流れが、小沢さんに対する評価が一般国民の中では非常に上がらない、ということなのではないかと思えます。

ただ、菅さんの政策能力が高いということで支持している方も実は私はあまりいないのではないかと思います。小沢さんを否定する、あるいは(首相を)ころころ変えるのは悪いという雰囲気があって、菅さんの絶対値は同じだけれども、片方下がれば片方上がるといようなそんな感じがします。そういう意味では先程お話ししましたとおり、実は非常に菅さん、野党時代はズバズバと歯切れが良かったんですけれども、総理になったら、全く政策のことは口にしなくなった。しょうがないんでしょうけれども、否定のみをしてきた方が肯定的なことをするには、やっぱり相当時間がかかると思えます。その時間を待っていられるかどうかというスタンスの設問だと、何か暗いところがあっても実行力のある小沢さんという、設問の仕方で調査の結果も全然違ってくるんです。ですからどちらがいいとか悪いとかではなく。

特に民主党の1年生議員の方々に申し上げたいのは、私がそんなこと申し上げる資格は何もないんですけれども、政治家は、親分を持っては駄目なんです。派閥の親分はいいんでしょうけれど、決断するときは自分の気持ちで。そこが、民主党の弱さだと思います。小沢軍団もそうなんですけれども、みんな、上の言うことだけ聞いている。江戸時代だったら、親分の言うことを聞かなかったら次の日バサッと首切られる。今はそんな時代でもないのに。選挙で、国民の信頼で何万票ももらった人が、親分の顔色とか、あっちの顔色を伺って、右往左往している。もう少し、大らかに、国会議員でしょう。民主党全体がそう見えるんですよ。新人といえども、国民の負託に応えるため選挙に当選したのに、俺こそ親分ということで、いくら派閥の親分でもあんまり理不尽だったら、ぶん殴るぐらいの気概でやらないと、これからの日本の政治は成り立たないと、ちょっと乱暴な言葉でしたけれども、そういうことで選挙になったら民主党の国会議員の皆さんには、人から言われたことではなくて自分の信念で投票していただければ、間接的に国民の期待と負託に応えたことになると思います。

(記者)

代表選に関連してお伺いします。今回の代表選は、今、知事おっしゃられたように、事実上、総理大臣を選ぶ選挙になるんですが、争点が脱小沢か親小沢かの、その1点というところに集約されているんですけども、しかしながら円高が進んでいたり、株安が進んでいたり、あるいは概算要求の時期でもあるんですが、民主党政権がマーケットとコミュニケーションがとれていないというところもあります。知事として、何を論戦してもらいたいかというところはありますか。

(知事)

小沢さんと菅さんの出自といますか、根っこのところはかなり違うと思います。菅さんは、社民党、かつての社会党との関係がありまして、どちらかという元々は自由経済の選択者ではないのではないかと。確かに生活者に根差した、弱い立場の人を考えるとというのはありますけれども、今の現実の経済社会というのは、ある程度、資本の論理を前に出しながら、セーフティーネットをどう張って、その安定性を保つかということで、ここら辺の今の経済社会に対する認識は、菅さんは理念的にちょっと持っていないのではないかと思います。小沢さんは、自民党時代から自由経済の中で重責っていうかその地位に就いていた人なんですけれども、ただ、小沢さんにしても、政策そのものを煮詰めてというよりも、ある程度、政策については大括りで、その下はやはりそれぞれ省庁でという方式でやっていました。ですから逆に、経済に対する視点が違う人が、この後の20年、30年先を見据えた、思い切った経済政策を両方から出していただくと。しかも、単に大風呂敷、ばらまきではなくて、財源、手法論も含めて出していただいで(選挙を)やったら、これは素晴らしい代表選になるのかなと思います。これは、それを支える知恵袋がやってやらないとだめですけども、それが見えると国民も単に脱小沢か親小沢ではなく、今、最大の日本の課題であるグローバル経済化の中の日本の地位をどうやって築いていくのかということであれば、非常に前向きな形で国民の目も注がれるのではないかなと思っています。それをやったら素晴らしい代表選挙、後世に残るのではないかなと思います。まだ14日間ありますので、二日か三日考えれば、ある程度の概略はできるはずなんですけれども。

(幹事社)

なければその他の質問お願いします。

(記者)

先週末に、韓国の方から(アイリスの関係者の)皆さんいらっしゃって、番組の製作会社の方、「アイリス2」のロケを本県でやるということで、かなり前向きな意欲を示されていたと思いますけれども、県の方から今度ロケに向けた対策であったり体制を整えるであったり、予算を新たに付けるといったことがあるのかどうか、あるとすればどういった内容かを教えてください。

(知事)

(イメージアップ表彰式に韓国の俳優が出席して) 非常にすごい効果だなと思います。埼玉からわざわざ車を飛ばして来ていただいたファンの方がいたりして、県民の皆さんにも喜んでいただいて。最初は、知事室でやろうかと思ったんですけども、これはおめでたいことだからオープンにしたらということで(第二庁舎で) やったんですけども、もっと広いところでやった方が良かったと思っています。あのような人気で、改めてびっくりした次第ですし、(アイリス関係者の) 一行の方々も喜んで行かれました。そういう中で「アイリス2」の話をどうするのかということで、一部リップサービスだとは思いますが、これは脈があるなということで、我々としては、(アイリスが) 当分のシリーズと考えて、例えば「007」のシリーズも、私が高校生のときだから45年間やってるんです。そこまでいくかどうかは別にして、長く続くとすると、いつも秋田というわけではないでしょうけれども、シリーズ最初に登場した秋田を常にどこかのシーンで秋田が出てくるという形というのが私は望ましいのかなと思います。これからもっと(制作会社等と) 連絡を取りながら、(ロケの) 場所の提案、今回、大曲の花火を見ていただきましたけれども、びっくりしていたようです。泊まったのは、鹿角の方へ行ってもらいまして、県北を見ていただいたりしましたので、またいろんな発想がわいてくるのかなと思います。それに我々としてどう協力していくのかだと思います。あのドラマは、ちょっとマニアックなところが実はありまして、私もウエポン(武器)についてはマニアックなところがあります。実は、県の第2庁舎の災害対策本部室で(アイリス2のロケ誘致のための) プレゼンをやりました。あそこは、(ドラマの) NSSの諜報本部の部屋にそっくりなんですよ、作りが。私はおもしろいと思うんです。あそこがNSSの日本支局という設定も。きれいな景色も必要ですけども、例えば、県の試験研究機関を新しいミサイルの開発している場所にするとか、幾らでも使えると思います。これは、本当にやってるわけではなく、そういう場面設定ということですけども。いろいろと私からも個別にこんなことやら安くできるよ、県としては映すだけだったら幾らでも応援できますよというような提案もして、そういうことで楽しくやっていきたいなと思っています。ただ、まあこれからです。当然、相当あちこちの県から、(ロケ誘致の) 働きかけはあるようですが、全国の知事で、これほどあの種のことにマニアックなのは私しかいないと思います。

(記者)

ありがとうございます。実際にそのロケ地の視察隊を受け入れるとかという方向に向けて。

(知事)

これからです。監督も来てましたので、あの方々芸術家ですので、こういう場面にはこういう場所ということで頭にも入っているようです。こちらからも資料を差し上げています。そういう中で接触を続けていきますので、そういう場面が見たいとなると直ちに対応します。しかも、その場所場所にフィルムコミッションもありますので、あちらの方の要請があれば、そういうフィルムコミッションも含めていろんなバックアップ体制とれると思いますので、我々としては何とか(アイリスの) 第2作(のロケを秋田で) やってほしいなということで、今後も働きかけを強めていきます。

(記者)

ちょっと話題が変わるんですけども、先週の北海道・北東北知事サミットでもお話ありましたスポーツ振興の件なんですけど、今、軟式野球の方は勝ち進んでいるんですけども、硬式野球の方は13年連続で初戦敗退ということで、議会でも問題になるんじゃないかというようなお話もしていました。高校野球は花形競技ということで、スポーツ立県の中でも注目される場所だと思うんですけども、具体的な強化策ですとか、そういったものの必要性を知事はどのように考えていらっしゃるのかというのを伺いたいんですが。

(知事)

スポーツもいろいろありますけれども、何と言っても高校野球がやっぱり県民の皆さんにとっては共通した一つの話です。そういうことから、私も秋田市長時代、秋田市立商業高校でしたけれども、何とか勝ってほしいと思っていました。選抜は勝ちましたけれども(夏の甲子園では)1回も勝てなかった。秋田県の高校野球の指導者、あるいは指導陣にどの程度の情報が入っているのかどうかよくわかりません。何としても秋田のレベルを上げるためには、いろんな新しい手法を取り入れなければならないし、それなりにまた経費もかかると思います。(サミットには)教育委員会の担当課長も行ってましたので、知事単独とか、教育長単独ではなくて、(皆さんの)ご意見も伺いながら、非常に県民の意気が上がることで、必要であれば、何らかの形で可能な限り強化策というもののある程度とっていかなければならないのではないかと考えています。いろんな意見があると思います。そこまでしてという人もいますけれども、ある程度のことのできるのであれば、私の個人的な希望としては、やはり強くしたいというのは、偽らざる気持ちです。

(記者)

県発注の(公共工事の)入札のことなんですけれども、今後、予定価格の事後公表っていうのを試行的にやっていくってことだそうなんですけれども、うちでも取材して聞いているんですけども、知事から、試行するその理由っていうんですか、何で予定価格を出さないことにしたのかということと、今回試験的ということなんですけれども、その後、来年度以降の予定価格の事後公表というのを、どういった方向に拡大していくのか、縮小していくのかみたいなことをちょっと考えお聞きしたいです。

(知事)

かつての予定価格の事後公表については、いろんな問題があったということで(予定価格の事前公表も)始めたわけです。(事前公表は)仕事がたくさんあるときはよかったですけれども、事業がなくなってきている中、ギリギリの低価格入札が普通になってしまっていて、だからといって予定価格を無理に上げることもできません。社会情勢が大分違ってきたという背景があるかと思います。実は、低価格入札でどんどんやっていく中で、今度は建設業者が過当競争に陥って体力を消耗して地域から一つずつ消えていくと、これが果たしていいことなのかということもあります。また、無理してやって後でおかしくなるということを踏まえると、情報管理を徹底しながら一部元の形へ、元というか、情報管

理を徹底しながら（事後公表に）戻した場合にどうなるのかということでの今回は試行です。

それから、国としては予定価格の事前公表については、ずっと否定的で、国の指導に別に従ったわけではありませんけれども、全国的にもやはり同じ問題意識が出てきています。我々としては一部まず試行してみようということで、全部事後公表にすべきか、ものによってその工種によってすべきか、あるいは選択制にすべきかというのは、これからの試行の結果を見て、決めなければならないと思っています。

やはり、相当無理がきているのかなと思っています。雇用の問題にしても、特に農村部に行くと、建設業者が1社潰れてしまうと除雪ができないということで、最後になると、みんな直営で除雪しなければならなくなるということもできます。やはり、全体の問題として、産業を一定の状況で保つというのも県の経済政策ですから、これは建設業者のみならず、いろんな方法でやっていますので、公正な仕組みの中で過当競争を避けるということは必要ではないのかなと思います。

(記者)

そうすると、まだあの拡大の方向とかがあってというのは決めてないと。

(知事)

これは、あくまでも試行ですから、試行の状況を見てということになります。制度をガラッと変えるときは、その後のいろんな現象も想定しながらやらなければなりませんから、そう簡単にいくものではないと思います。

(記者)

元に戻すという言葉もありましたけれども、予定価格を公表しないとある程度いろんな探り合いとかが始まって、その業者同士の話し合いとか、いわゆる談合というような状況が、また醸成されかねないという懸念もあります。

(知事)

ですから情報管理だとか、そういう問題も当然片方にあるんですよ。事後公表といっても、そのルールをどうするのか、情報管理の徹底の方法をどうするのか、同時にきちっと検討していかなきゃならないことではないだろうかと。

(記者)

じゃあ談合の状況というのは生まれないだろう、生まれないように。

(知事)

それをどうするのかというのは、これからです。どういう形にするのか、人をどれくらい、疑ってかかるのか、あんまり疑ってかかるっていうのも変な話なんです。しかしながら、かつていろんな問題があったとすると、その問題に対する対処法も踏まえての形でないとおかしい話なのかなと思いますので、いろんな対処法も踏まえて検討しなければなら

ないと、そういうことです。

(幹事社)

じゃあ時間ですので、会見を終わりたいと思います。ありがとうございました。